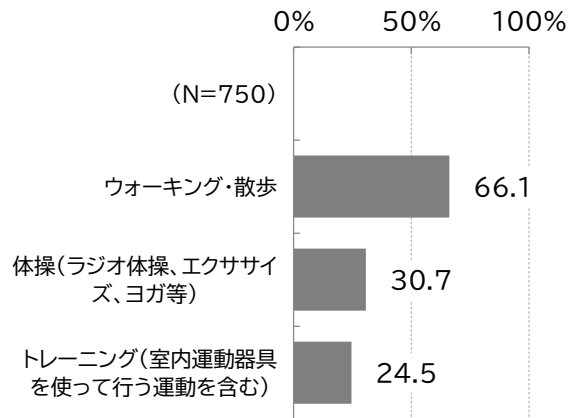

**文京区アカデミー推進計画に関する実態調査
報告書【概要版】**

1 スポーツに関する項目について

(1) スポーツを「する」ことについて

過去1年間に実施したスポーツをみると、「ウォーキング・散歩」が66.1%と最も多く、次いで「体操(ラジオ体操、エクササイズ、ヨガ等)」が30.7%、「トレーニング(室内運動器具を使って行う運動を含む)」が24.5%となっています。また、実施しなかった人の割合は10.8%です。

区の週1日以上スポーツ実施率は54.9%であり、国(55.3%)や東京都(57.2%)と比べて低くなっています。

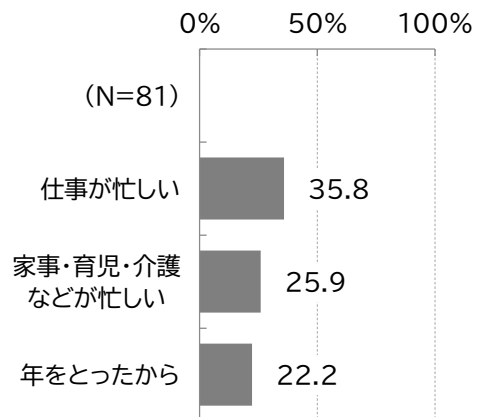


※上記のような複数回答のグラフ(横棒グラフ)は、割合が上位の項目のみ掲載しています。以下、同様。

※週1日以上スポーツ実施率は、週に1日以上実施している人(412人)を、本調査全体の回答者数(750人)で除して求めています。

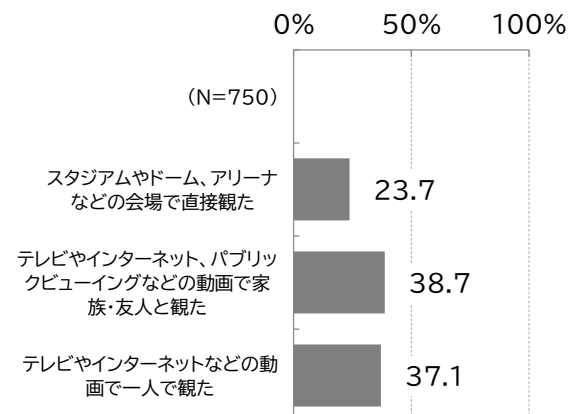
(2) スポーツをしない理由について

過去1年間にスポーツを実施しなかった理由をみると、「仕事が忙しい」が35.8%と最も多く、次いで「家事・育児・介護などが忙しい」が25.9%、「年をとったから」が22.2%となっています。



(3) スポーツを「みる」ことについて

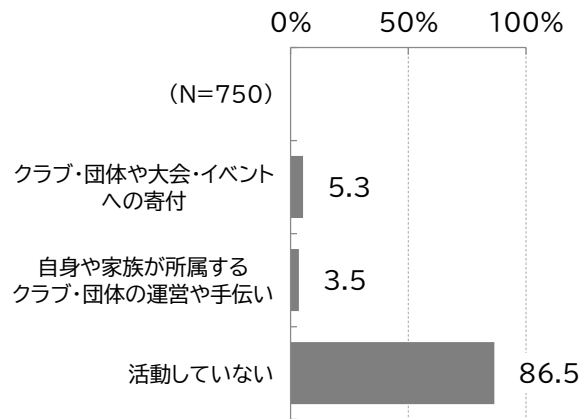
過去1年間にプロスポーツ大会や世界大会等のレベルの高い試合を「スタジアムやドーム、アリーナなどの会場で直接観た」は23.7%となっており、東京都(41.1%)と比べて低くなっています。



(4)スポーツを「ささえる」ことについて

過去1年間にスポーツボランティア活動をした人の割合は10.7%であり、国(10.6%)とほぼ同じですが、東京都(14.6%)と比べると低くなっています。

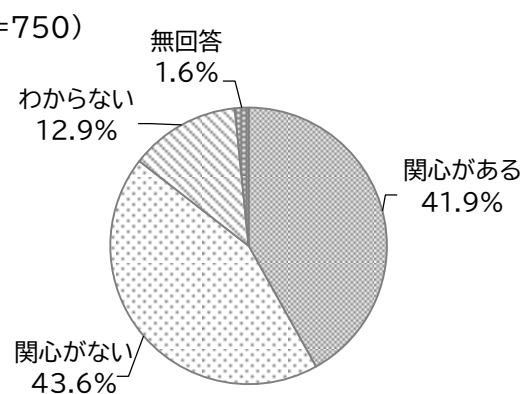
活動内容を見ると、「クラブ・団体や大会・イベントへの寄付」が5.3%と最も多く、次いで「自身や家族が所属するクラブ・団体の運営や手伝い」が3.5%となっています。また、活動していない人の割合は86.5%です。



※過去1年間にスポーツボランティア活動をした人の割合は、100%から「活動していない」(86.5%)と「無回答」(2.8%)を除いて求めています。

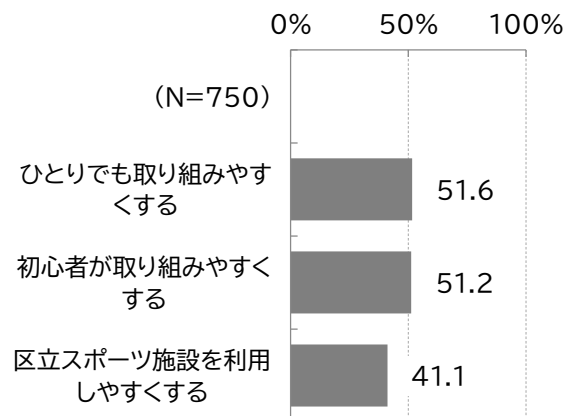
(5)障害者スポーツの関心について

障害者スポーツに「関心がある」が41.9%（「関心がある」と「やや関心がある」の合計）となっており、東京都(59.2%)と比べて低くなっています。



(6)区が力を入れるべき取組の視点について

文京区でスポーツを実施する人が増えるために、区がより力を入れるべき取組の視点をみると、「ひとりでも取り組みやすくする」が51.6%と最も多く、次いで「初心者が取り組みやすくする」が51.2%、「区立スポーツ施設を利用しやすくする」が41.1%となっています。

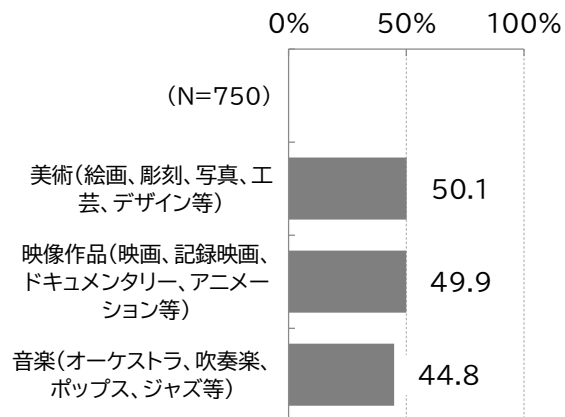


2 文化芸術に関する項目について

(1)文化芸術を鑑賞することについて

「美術（絵画、彫刻、写真、工芸、デザイン等）」が50.1%と最も多く、次いで「映像作品（映画、記録映画、ドキュメンタリー、アニメーション等）」が49.9%、「音楽（オーケストラ、吹奏楽、ポップス、ジャズ等）」が44.8%となっています。また、鑑賞しなかった人の割合は17.6%です。

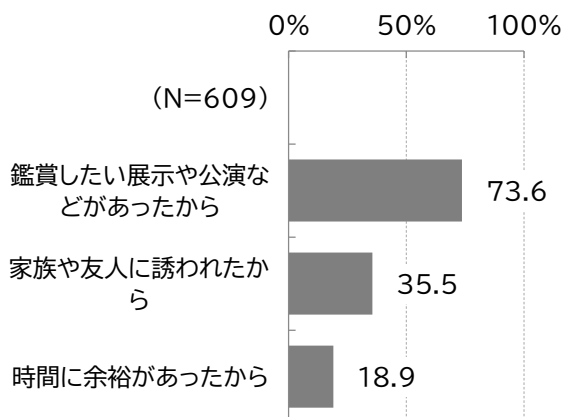
過去1年間に出かけて文化芸術を鑑賞した人の割合は81.2%であり、国（53.9%）や東京都（72.6%）と比べて高くなっています。



※過去1年間に出かけて文化芸術を鑑賞した人の割合は、100%から「鑑賞しなかった」(17.6%)と「無回答」(1.2%)を除いて求めています。

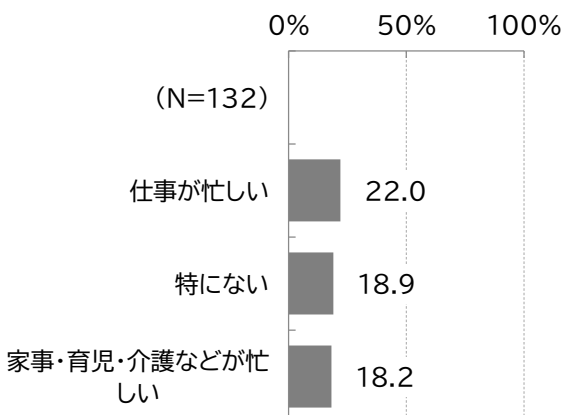
(2)文化芸術を鑑賞したきっかけについて

「鑑賞したい展示や公演などがあったから」が73.6%と最も多く、次いで「家族や友人に誘われたから」が35.5%、「時間に余裕があったから」と「広告・チラシ・テレビ等を見たから」が18.9%となっています。



(3)文化芸術を鑑賞しない理由について

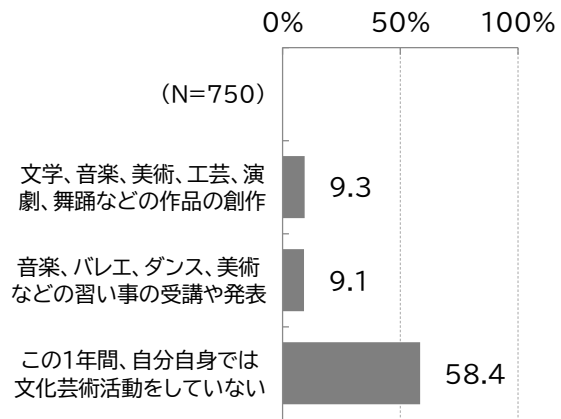
過去1年間に文化ホールや美術館、博物館、劇場、映画館などに出かけて文化芸術を鑑賞しなかった理由をみると、「仕事が忙しい」が22.0%と最も多く、次いで「特にない」が18.9%、「家事・育児・介護などが忙しい」が18.2%となっています。



(4)文化芸術の活動状況について

過去1年間に自ら文化芸術の活動をした人の割合は32.4%であり、国(25.3%)や東京都(30.1%)と比べて高くなっています。また、活動をしていない人の割合は58.4%です。

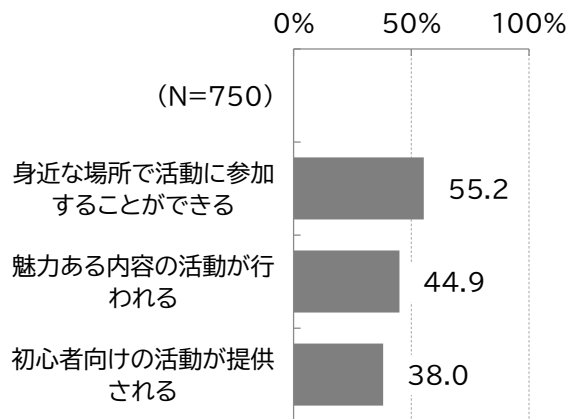
活動内容をみると「文学、音楽、美術、工芸、演劇、舞踊などの作品の創作」が9.3%と最も多く、次いで「音楽、バレエ、ダンス、美術などの習い事の受講や発表」が9.1%となっています。



※過去1年間に自ら文化芸術の活動をした人の割合は、100%から「活動をしていない」(58.4%)と「わからない」(4.7%)、「無回答」(4.5%)を除いて求めています。

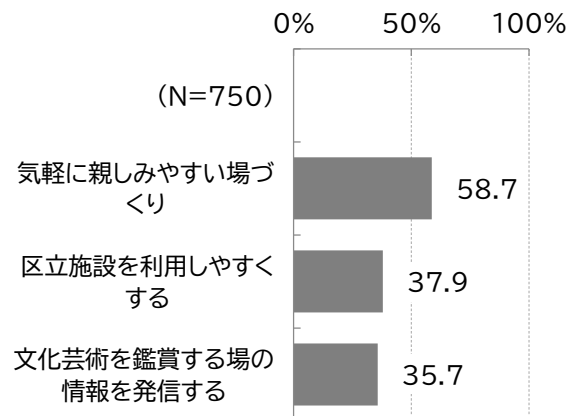
(5)文化芸術の活動に参加しやすくなるための取組について

区民が文化芸術の活動に参加しやすくなるために、区がより力を入れるべき取組をみると、「身近な場所で活動に参加することができる」が55.2%と最も多く、次いで「魅力ある内容の活動が行われる」が44.9%、「初心者向けの活動が提供される」が38.0%となっています。



(6)区が力を入れるべき取組の視点について

文化芸術に親しむ人が増えるために、区がより力を入れるべき取組の視点をみると、「気軽に親しみやすい場づくり」が58.7%と最も多く、次いで「区立施設を利用しやすくする」が37.9%、「文化芸術を鑑賞する場の情報を発信する」が35.7%となっています。

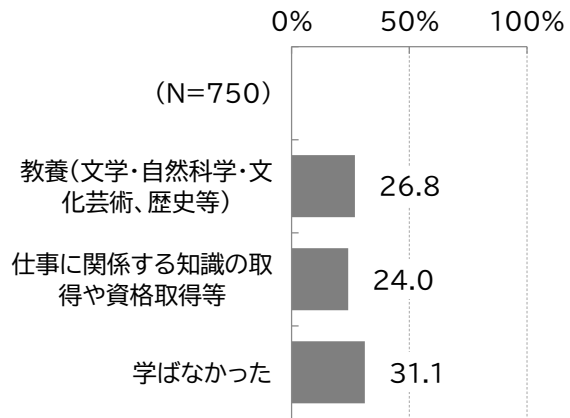


3 学習活動に関する項目について

(1) 学習活動をすることについて

過去1年間に学んだことのある人の割合は67.2%で、前回調査(38.1%)と比べて高くなっています。また、学ばなかった人の割合は31.1%です。

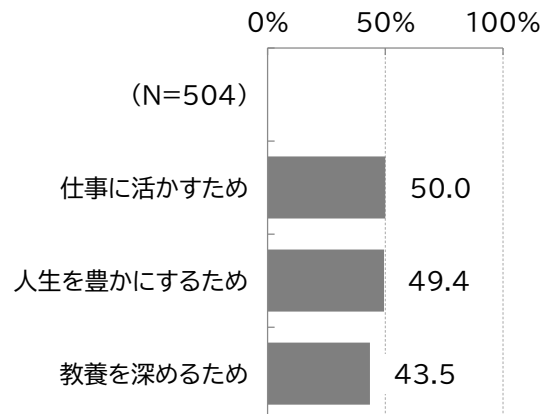
学んだ分野をみると、「教養(文学・自然科学・文化芸術、歴史等)」が26.8%と最も多く、「仕事に関する知識の取得や資格取得等」が24.0%となっています。



※過去1年間に学んだことのある人の割合は、100%から「学ばなかった」(31.1%)と「無回答」(1.7%)を除いて求めています。

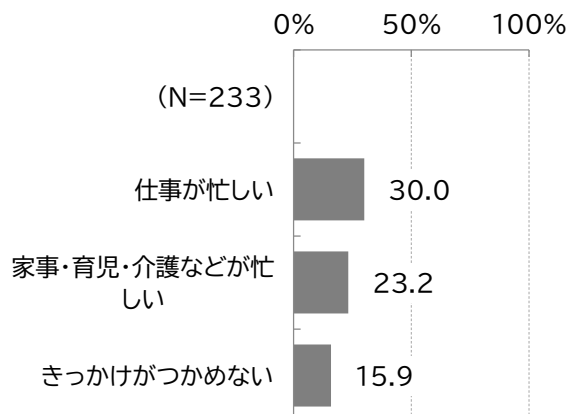
(2) 学んだ理由について

学んだ理由をみると、「仕事に活かすため」が50.0%と最も多く、次いで「人生を豊かにするため」が49.4%、「教養を深めるため」が43.5%となっています。



(3) 学ばなかった理由について

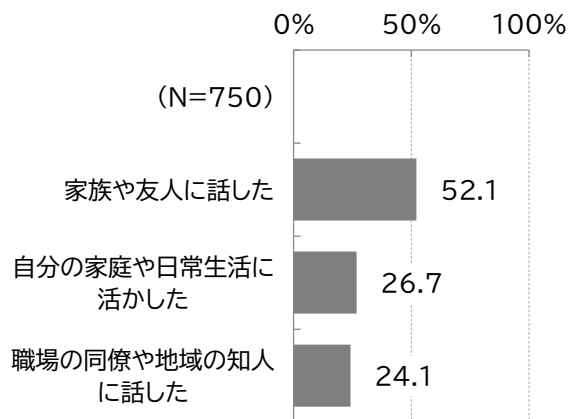
学ばなかった理由をみると、「仕事が忙しい」が30.0%と最も多く、次いで「家事・育児・介護などが忙しい」が23.2%、「きっかけがつかめない」が15.9%となっています。



(4)学んだ内容の活用等について

これまで学んだ内容を話したり、自分の仕事や日常生活、他人や地域のために活かしたことがある人の割合は75.7%です。また、活かしたいと思わない人の割合は10.3%です。

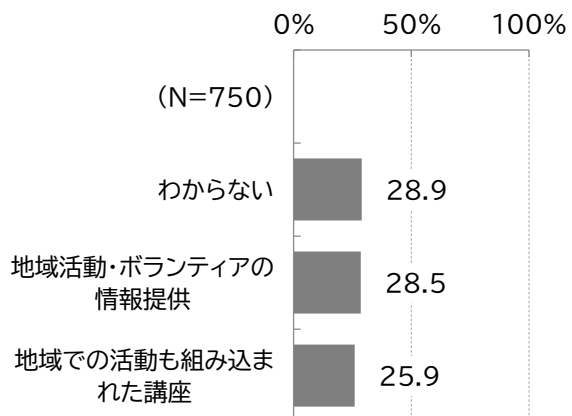
活用等の状況を見ると、「家族や友人に話した」が52.1%と最も多く、次いで「自分の家庭や日常生活に活かした」が26.7%、「職場の同僚や地域の知人に話した」が24.1%となっています。



※これまで学んだ内容を話したり、自分の仕事や日常生活、他人や地域のために活かしたことがある人の割合は、100%から「他人や地域のために活かしたいが、機会がない」(6.9%)と「活かしたいと思わない」(10.3%)、「無回答」(7.1%)を除いて求めています。

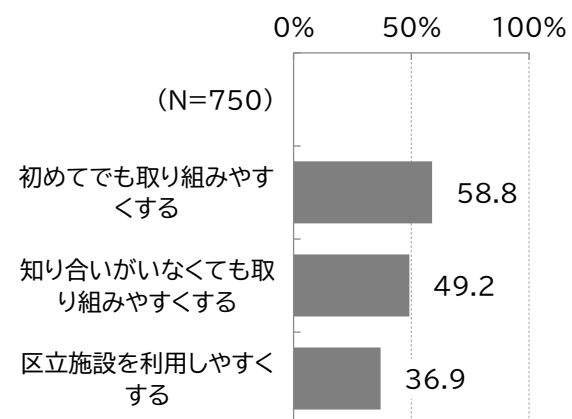
(5)学んだ内容を活用しやすくなるための取組について

区民が学習活動で得た内容を地域や他人のために活かすために、区がより力を入れるべき取組をみると、「わからない」が28.9%と最も多く、次いで「地域活動・ボランティアの情報提供」が28.5%、「地域での活動も組み込まれた講座」が25.9%となっています。



(6)区が力を入れるべき取組の視点について

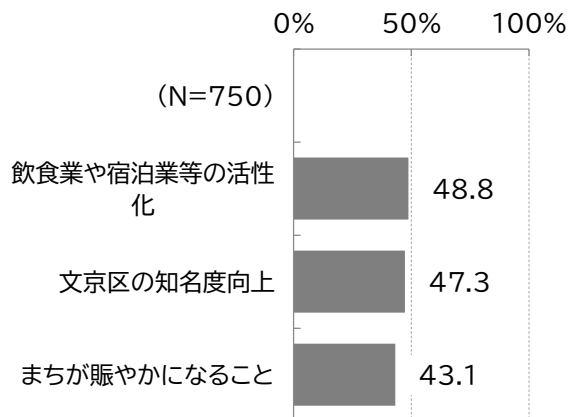
文京区で学習活動を行う人が増えるために、区がより力を入れるべき取組の視点をみると、「初めてでも取り組みやすくする」が58.8%と最も多く、次いで「知り合いがいなくても取り組みやすくする」が49.2%、「区立施設を利用しやすくする」が36.9%となっています。



4 観光に関する項目について

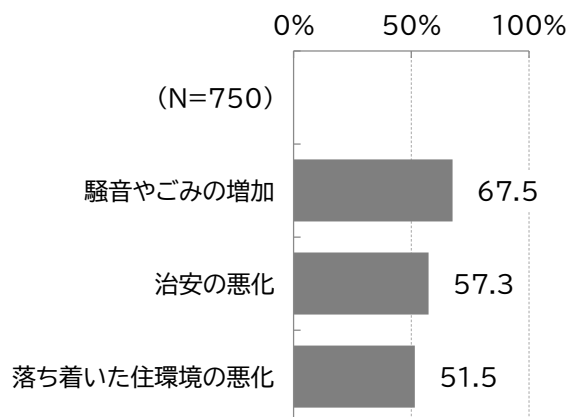
(1)観光客が増えることに対する期待について

区内への観光客の増加における良いことをみると、「飲食業や宿泊業等の活性化」が48.8%と最も多く、次いで「文京区の知名度向上」が47.3%、「まちが賑やかになること」が43.1%となっています。



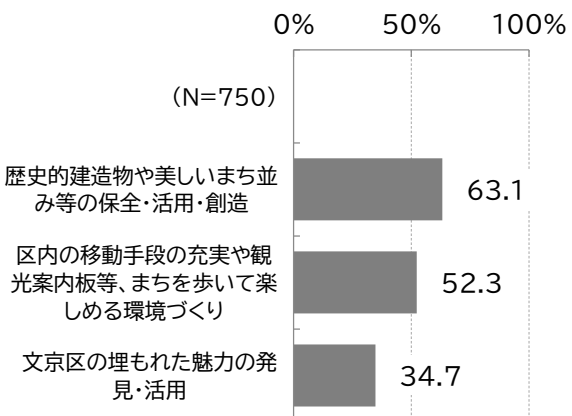
(2)観光客が増えることに対する不安について

区内への観光客の増加における不安なことをみると、「騒音やごみの増加」が67.5%と最も多く、次いで「治安の悪化」が57.3%、「落ち着いた住環境の悪化」が51.5%となっています。



(3)区が力を入れるべき取組について

観光を振興するにあたり、区がより力を入れるべき取組をみると、「歴史的建造物や美しいまち並み等の保全・活用・創造」が63.1%と最も多く、次いで「区内の移動手段の充実や観光案内板等、まちを歩いて楽しめる環境づくり」が52.3%、「文京区の埋もれた魅力の発見・活用」が34.7%となっています。



(4)観光資源に活用すべき資源について

文京区の観光資源のうち、観光振興に活用するとよいと思う具体的な資源をみると、「六義園」(78.4%)、「森鷗外」・「夏目漱石」(68.9%)、「花の五大まつり(さくらまつり、つつじまつり、あじさいまつり、菊まつり、梅まつり)」(64.7%)、「湯島天満宮」(75.1%)、「東京ドーム」(70.4%)が多くなっています。

下表は、観光資源のうち、「史跡・名勝・公園・建造物等」、「観光イベント」、「寺社仏閣」に関する上位3位までの項目の割合を示しています。

<史跡・名勝・公園・建造物等>

順位	観光資源	割合
1位	六義園	78.4%
2位	小石川後樂園	68.3%
3位	小石川植物園	55.6%

<観光イベント>

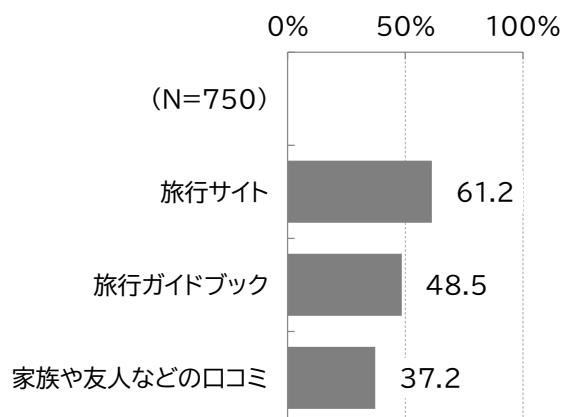
順位	観光資源	割合
1位	花の五大まつり(さくらまつり、つつじまつり、あじさいまつり、菊まつり、梅まつり)	64.7%
2位	根津・千駄木下町まつり	47.5%
3位	文京朝顔・ほおずき市	36.5%

<寺社仏閣>

順位	観光資源	割合
1位	湯島天満宮	75.1%
2位	根津神社	71.9%
3位	護国寺	52.3%

(5)観光に関する情報入手方法について

海外または国内の観光に関する情報入手方法をみると、「旅行サイト」が61.2%と最も多く、次いで「旅行ガイドブック」が48.5%、「家族や友人などの口コミ」が37.2%となっています。

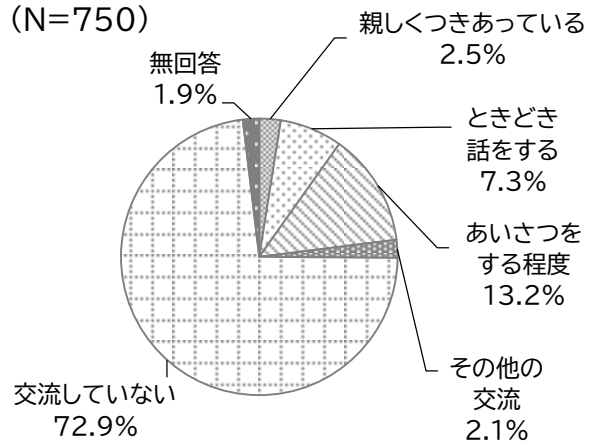


5 国内・国際交流に関する項目について

(1)区内における外国人との交流状況について

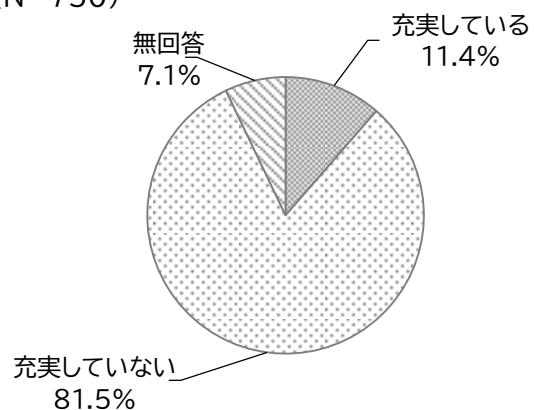
区内において外国人（訪日・在住問わず）と交流のある人の割合は25.2%であり、前回調査（30.6%）と比べて低くなっています。

交流状況を見ると、「交流していない」が72.9%と最も多く、次いで「あいさつをする程度」が13.2%、「ときどき話をする」が7.3%となっています。



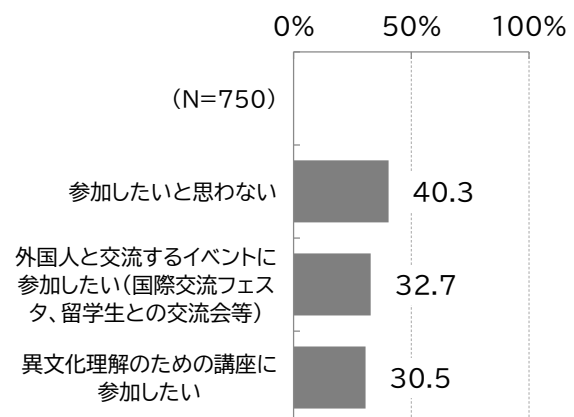
(2)外国人との交流機会の充実さについて

区内において外国人（訪日・在住問わず）との交流機会の充実さをみると、「充実している」と「どちらかといえば充実している」の合計、「充実していない」と「どちらかといえば充実していない」の合計）となっています。



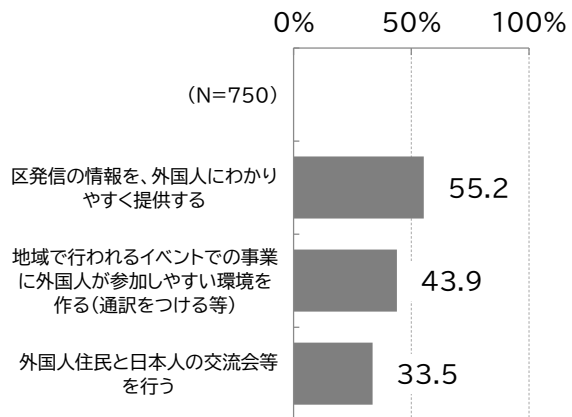
(3)区が主催する国際交流のための講座やイベントへの参加意向について

区が主催する国際交流のための講座やイベントへの参加意向をみると、「参加したいと思わない」が40.3%と最も多く、次いで「外国人と交流するイベントに参加したい（国際交流フェスタ、留学生との交流会等）」が32.7%、「異文化理解のための講座に参加したい」が30.5%となっています。



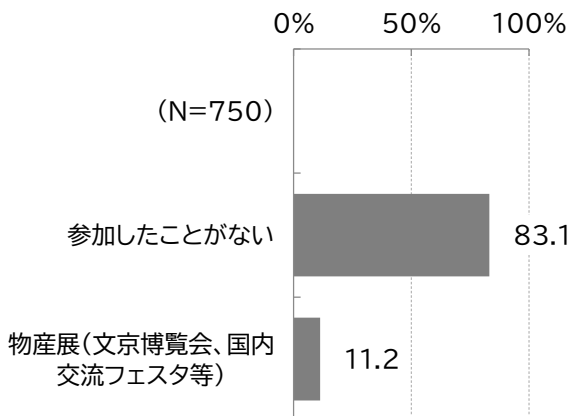
(4)区が外国人との交流の推進に向けて力を入れるべき取組について

外国人（訪日・在住問わず）との交流の推進に向けて、区がより力を入れるべき取組をみると、「区発信の情報を、外国人にわかりやすく提供する」が55.2%と最も多く、次いで「地域で行われるイベントでの事業に外国人が参加しやすい環境を作る（通訳をつける等）」が43.9%、「外国人住民と日本人の交流会等を行う」が33.5%となっています。



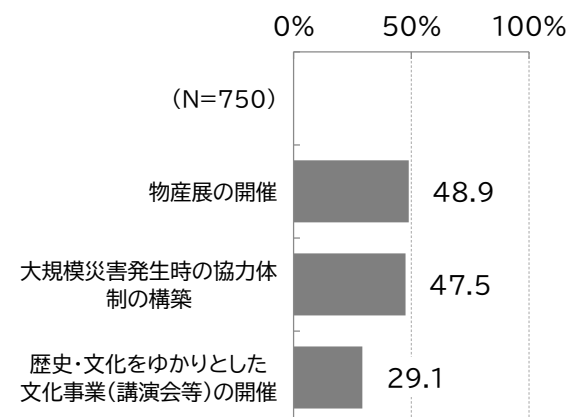
(5)国内交流事業の参加状況について

国内交流事業の参加状況をみると、「参加したことがない」が83.1%と最も多く、次いで「物産展（文京博覧会、国内交流フェスタ等）」が11.2%となっています。



(6)区が国内交流の促進に向けて力を入れるべき取組について

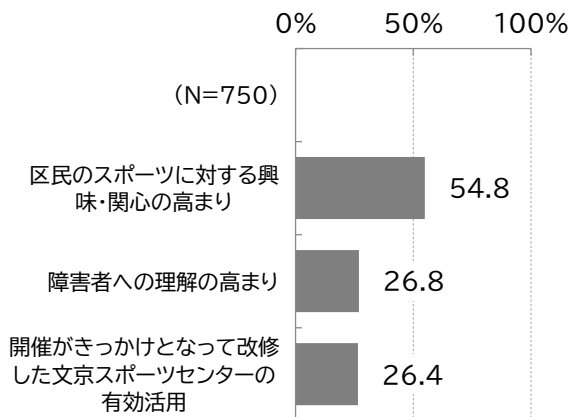
国内交流の促進に向けて、区がより力を入れるべき取組をみると、「物産展の開催」が48.9%と最も多く、次いで「大規模災害発生時の協力体制の構築」が47.5%、「歴史・文化をゆかりとした文化事業（講演会等）の開催」が29.1%となっています。



6 横断的施策に関する項目について

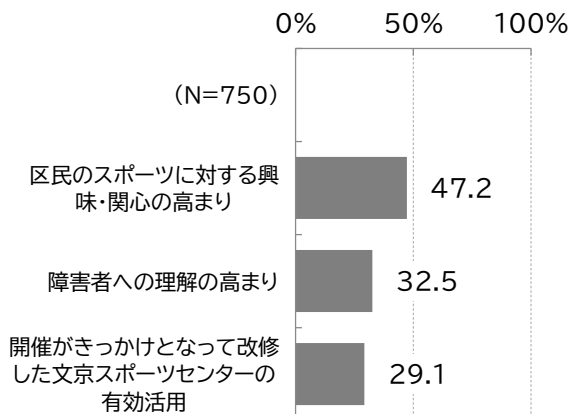
(1) 東京 2020 大会の開催決定によりもたらされたことについて

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会（以下、「東京 2020 大会」という。）の開催決定により、文京区にもたらされたことをみると、「区民のスポーツに対する興味・関心の高まり」が 54.8%と最も多く、次いで「障害者への理解の高まり」が 26.8%、「開催がきっかけとなって改修した文京スポーツセンターの有効活用」が 26.4%となっています。



(2) 東京 2020 大会の開催後期待することについて

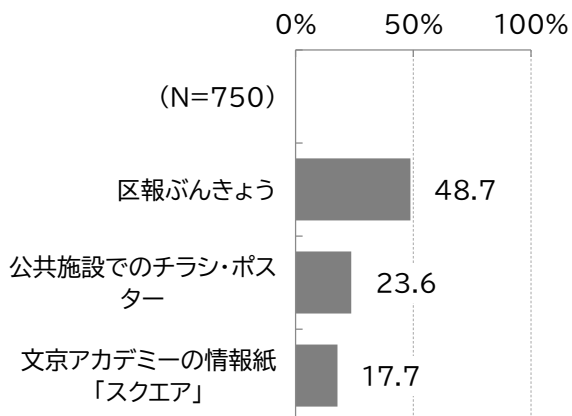
東京 2020 大会の開催後、文京区にもたらされる効果として期待するものをみると、「区民のスポーツに対する興味・関心の高まり」が 47.2%と最も多く、次いで「障害者への理解の高まり」が 32.5%、「開催がきっかけとなって改修した文京スポーツセンターの有効活用」が 29.1%となっています。



(3) 区の実施における情報入手方法について

スポーツ、文化芸術、学習活動、国際交流・国内交流に関する区の実施についての情報入手方法をみると、どの分野であっても「区報ぶんきょう」が最も多くなっています。

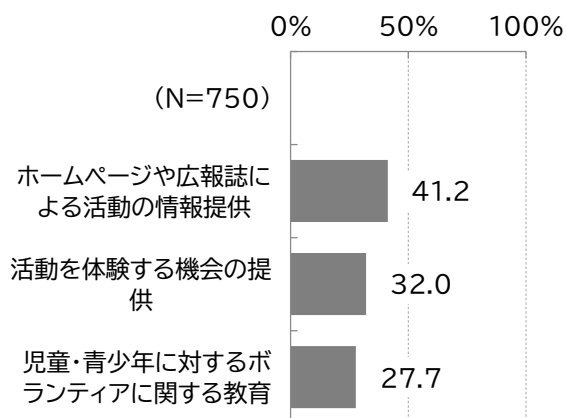
右図は、文化芸術の情報入手方法の割合を示しています。



(4) ボランティア活動の充実に向けてについて力を入れるべき取組について

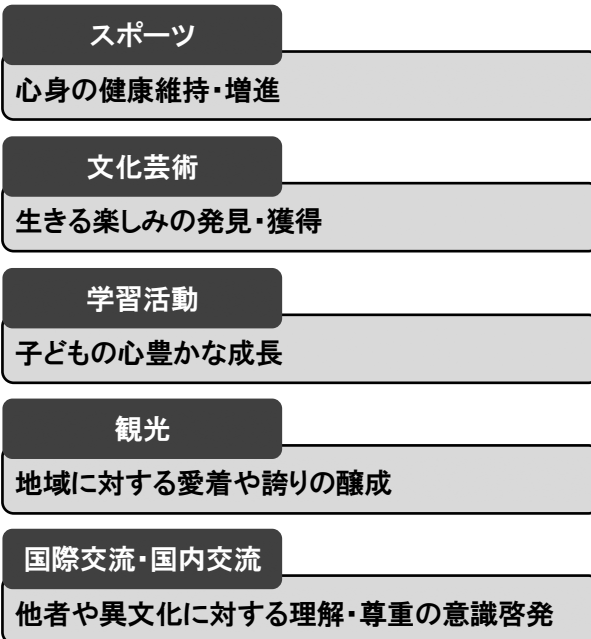
スポーツ、文化芸術、学習活動、観光、国際交流・国内交流に関するボランティア活動の充実に向けて、区がより力を入れるべき取組をみると、「ホームページや広報誌による活動の情報提供」が最も多くなっています。

右図は、学習活動に関するボランティア活動の充実に向けて、区がより力を入れるべき取組の割合を示しています。



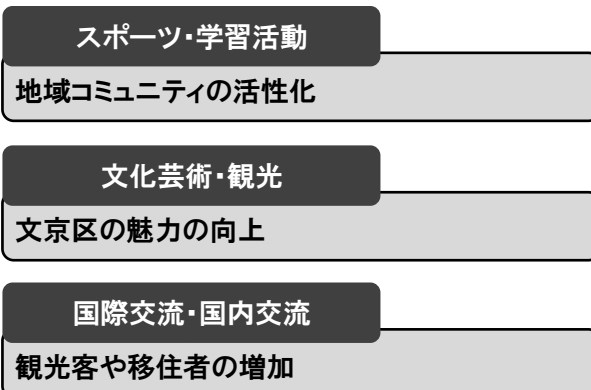
(5) 各分野の施策が個人にもたらす効果について

スポーツ、文化芸術、学習活動、観光、国際交流・国内交流の各分野の施策に区が力を入れた場合、個人にもたらされる効果をみると、スポーツは「心身の健康維持・増進」、文化芸術は「生きる楽しみの発見・獲得」、学習活動は「子どもの心豊かな成長」、観光は「地域に対する愛着や誇りの醸成」、国際交流・国内交流は「他者や異文化に対する理解・尊重の意識啓発」が最も多くなっています。



(6) 各分野の施策が地域にもたらす効果について

スポーツ、文化芸術、学習活動、観光、国際交流・国内交流の各分野の施策に区が力を入れた場合、地域にもたらされる効果をみると、スポーツと学習活動は「地域コミュニティの活性化」、文化芸術と観光は「文京区の魅力の向上」、国際交流・国内交流は「観光客や移住者の増加」が最も多くなっています。



7 分野別の関心・行動の度合いに視点を置いた分析

(1)分析概要について

①分析目的

スポーツ、文化芸術、学習活動におけるそれぞれの関心・行動の度合いに着目し、性別や年代等の基本属性、各分野の行動していない理由、各分野に親しむ人が増えるために力を入れるべき施策等について、関心・行動の度合い別による特徴を把握するために分析を行いました。

②各分野における関心・行動の度合いの定義

各分野における関心・行動の度合いは、①関心がなく行動しなかった人（以下「無関心層」という。）、②関心はあるが行動しなかった人（以下「関心層」という。）、③関心があつて行動した人（以下「行動層」という。）の3つのグループに分類しました。3グループの具体的な定義は次のとおりです。

各分野の「無関心層」・「関心層」・「行動層」の定義

分野	分類	関心の有無	行動の有無
スポーツ	無関心層	「スポーツや運動」に関心がなく、 <u>かつ</u>	過去1年間で スポーツや運動を実施しなかった人
	関心層	「スポーツや運動」に関心があり、 <u>かつ</u>	週1日以上 スポーツや運動を実施しなかった人
	行動層	「スポーツや運動」に関心があり、 <u>かつ</u>	週1日以上 スポーツや運動を実施した人
文化芸術	無関心層	「文化芸術」に関心がなく、 <u>かつ</u>	過去1年間で 文化芸術を鑑賞しなかった人
	関心層	「文化芸術」に関心があり、 <u>かつ</u>	
	行動層	「文化芸術」に関心があり、 <u>かつ</u>	過去1年間で 文化芸術を鑑賞した人
学習活動	無関心層	「学習活動」に関心がなく、 <u>かつ</u>	過去1年間で 学習活動をしなかった人
	関心層	「学習活動」に関心があり、 <u>かつ</u>	
	行動層	「学習活動」に関心があり、 <u>かつ</u>	過去1年間で 学習活動をした人

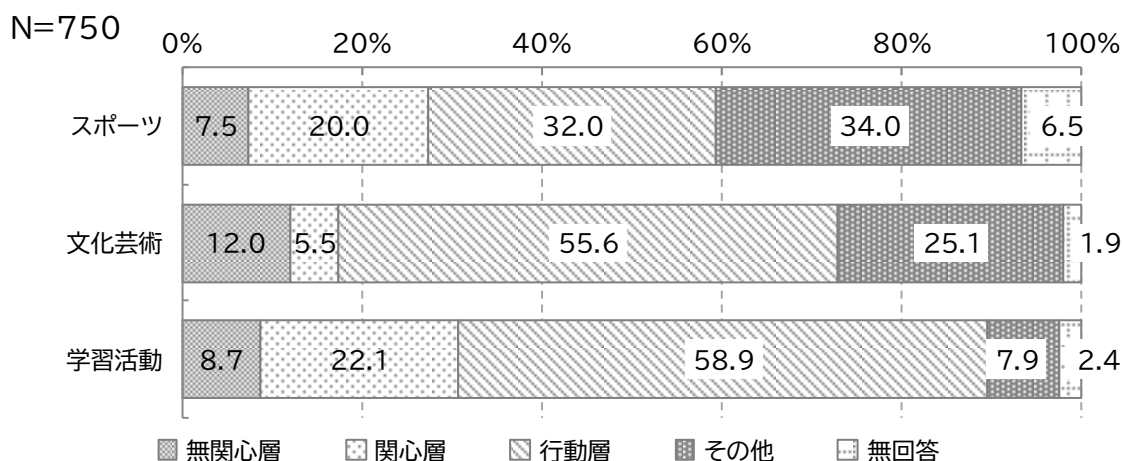
注) 各分野について、関心はないが、行動した人は除く。

(2)関心・行動の度合いの分布について

スポーツは、「無関心層」が7.5%、「関心層」が20.0%、「行動層」が32.0%となっています。

文化芸術は、「無関心層」が12.0%、「関心層」が5.5%、「行動層」が55.6%を超えています。

学習活動は、「無関心層」が8.7%、「関心層」が22.1%、「行動層」が58.9%となっています。



(3)区が力を入れるべき施策

3分野それぞれにおいて区が力を入れるべき施策について、スポーツの関心・行動の度合い別にみると、上位2位までは全体と同じく「初心者が取り組みやすくする」、「ひとりでも取組やすくする」とおおむね同じ傾向にあります。上位3位に着目すると、全体では「区立スポーツ施設を利用しやすくする」に対して、無関心層は「働いている人が取り組みやすくする」となっています。

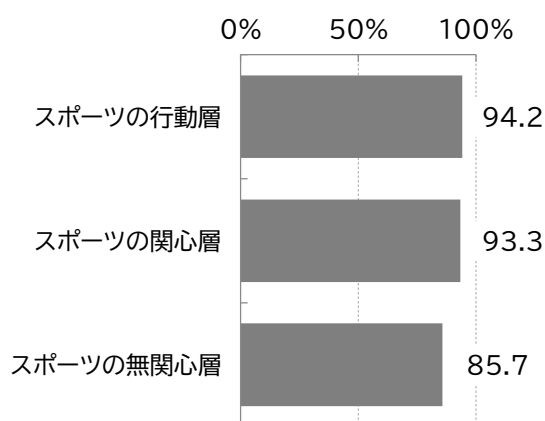
文化芸術の関心・行動の度合い別にみると、上位1位は「気軽に親しみやすい場づくり」であり、全体と同じ傾向にあります。上位2位に着目すると、全体では「区立施設を利用しやすくする」に対して、無関心層と関心層は「高齢者が親しみやすくする」、関心層と行動層は「文化芸術を鑑賞する場の情報を発信する」となっています。

学習活動の関心・行動の度合い別にみると、上位1位は「初めてでも取り組みやすくする」であり、全体と同じ傾向にあります。上位2位に着目すると、全体では「知り合いがいなくても取り組みやすくする」に対して、無関心層は「高齢者が親しみやすくする」となっています。

(5)文京区に対する愛着の度合い

3分野ともに、無関心層よりも、関心層と行動層の方が文京区に「愛着がある」と回答した人の割合が多くなっています。

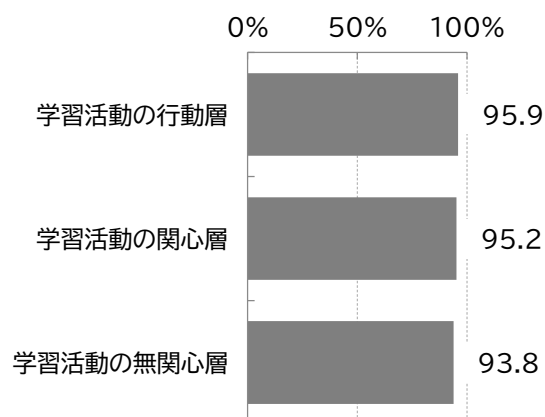
右図は、スポーツの関心・行動の度合い別に、文京区に「愛着がある」と回答した人の割合を示しています。



(6)文京区での継続居住意向

3分野ともに、文京区に「住み続けたい」と回答した人の割合に大きな差はみられませんでした。

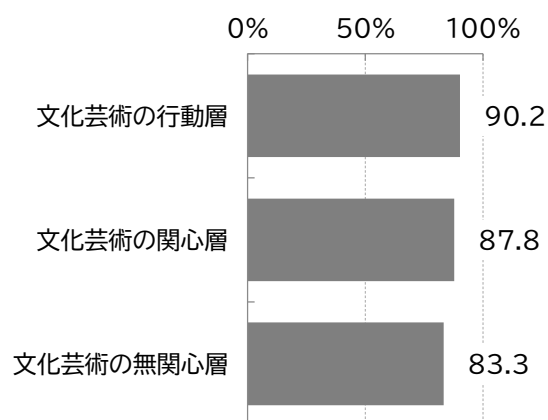
右図は、学習活動の関心・行動の度合い別に、文京区に「住み続けたい」と回答した人の割合を示しています。



(7)文京区の推奨度合い

3分野ともに、関心・行動の度合いが上がる（無関心層→関心層→行動層）につれて、文京区を「勧めたい」と回答した人の割合が多くなっています。

右図は、文化芸術の関心・行動の度合い別に、文京区を「勧めたい」と回答した人の割合を示しています。



(8)近所づきあい等の有無

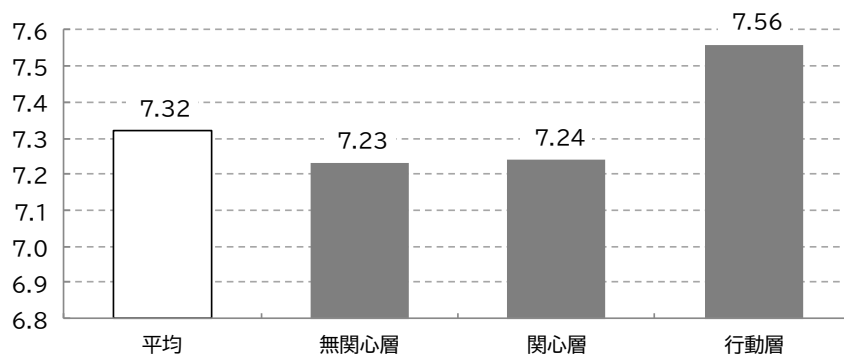
近所づきあいの状況をみると、3分野ともに、無関心層よりも、関心層と行動層の方が「近所づきあい等がある」が多くなっています。

文京区内に住み人とのつながり度合いについて、3分野における関心・行動の度合い別にみると、全体では「つながりのある人はいない」が多くなっているのに対して、スポーツと文化芸術の行動層は「つながりのある人はいる」が多くなっています。

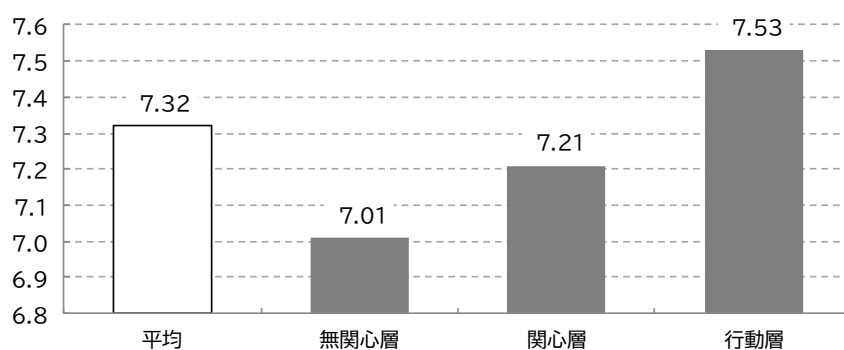
(9)生活満足度

生活満足度をみると、3分野ともに、行動層の生活満足度の平均点が高くなっています。また、関心・行動の度合いが上がる（無関心層→関心層→行動層）につれて、生活満足度の平均点が高くなっています。

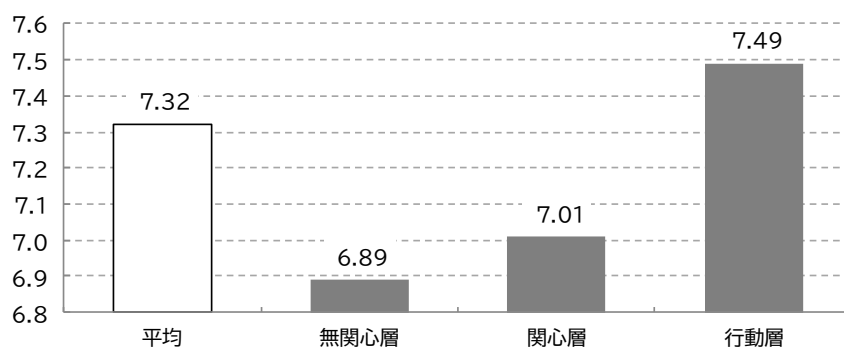
スポーツの関心・行動の度合い



文化芸術の関心・行動の度合い



学習活動の関心・行動の度合い



8 分野別目標の評価に関する分析

(1)分析概要

①分析目的

スポーツ、文化芸術、学習活動、観光、国内・国際交流の5分野における分野別目標の満足度と重要度に着目し、「満足度と重要度を組み合わせた分析」、「一般区民と事業参加者との比較による分析」の2つの視点に基づいて各分野に対する区民の評価を確認しました。

②分野別目標における満足度と重要度の平均値

分野別目標における満足度（重要度）は、「満足（重要）ではない」、「どちらかといえば満足（重要）ではない」、「どちらかといえば満足（重要）である」、「満足（重要）である」の4段階で尋ねています。

これら4つの選択肢について、「満足（重要）ではない」から「満足（重要）である」までを1点～4点と配点し、分野別目標における満足度（重要度）の平均値を次のとおり算出しました。

分野	目標	満足度	重要度
スポーツ	①観戦などを通じて、スポーツの楽しさを知る機会を増やすこと	2.32	3.14
	②いつでも、どこでも、だれでも気軽に楽しめるスポーツ活動を充実させること	2.23	3.42
	③スポーツ活動を支える環境を整備すること	2.31	3.46
	④スポーツを通じて仲間をつくり、交流すること	2.27	3.04
	平均値	2.28	3.27
文化芸術	①だれもが文化芸術に親しむことができる環境をつくること	2.44	3.46
	②文化芸術を鑑賞・創造する活動を支援すること	2.38	3.31
	③地域の伝統や文化を守り、伝え、活用する仕組みをつくること	2.38	3.36
	平均値	2.40	3.38
学習活動	①いつでも、どこでも、だれでも学習や活動ができる機会を提供し、充実させること	2.32	3.52
	②一人ひとりの学びの成果を生かす機会を提供し、充実させること	2.28	3.16
	③継続した学びの成果を地域に還元すること	2.25	3.05
	平均値	2.28	3.24
観光	①観光資源の発掘や保護を通じて、文京区の魅力や個性をつくり出すこと	2.51	3.37
	②情報を収集し、発信することで、観光客を増やすこと	2.44	3.21
	③だれもが観光に訪れたいまちを支える仕組みをつくること	2.40	3.24
	平均値	2.45	3.27
国内・国際交流	①情報をわかりやすく発信し、国際交流を促進する機会をつくること	2.28	3.34
	②外国人が快適に過ごせる環境をつくること	2.33	3.24
	平均値	2.31	3.29
全分野の平均値		2.34	3.29

(2)分野別目標における満足度と重要度を組み合わせた分析について

重要度が高いにも関わらず、満足度の低い分野別目標は、スポーツの「いつでも、どこでも、だれでも気軽に楽しめるスポーツ活動を充実させること」、「スポーツ活動を支える環境を整備すること」、学習活動の「いつでも、どこでも、だれでも学習や活動ができる機会を提供し、充実させること」、国内・国際交流の「情報をわかりやすく発信し、国際交流を促進する機会をつくること」の4つとなっています。

重要度が高いにも関わらず、満足度の低い分野別目標

スポーツ

- いつでも、どこでも、だれでも気軽に楽しめるスポーツ活動を充実させること
- スポーツ活動を支える環境を整備すること

学習活動

- いつでも、どこでも、だれでも学習や活動ができる機会を提供し、充実させること

国内・国際交流

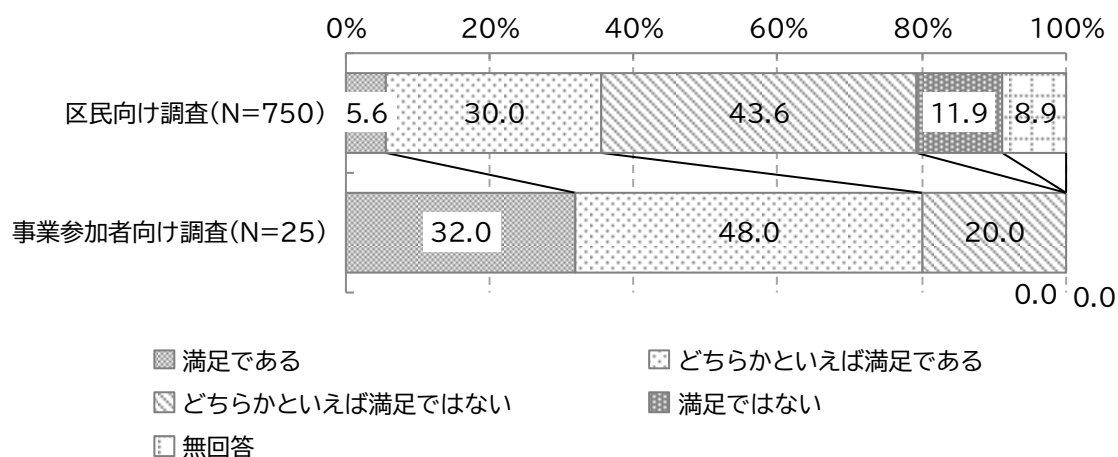
- 情報をわかりやすく発信し、国際交流を促進する機会をつくること

(3)一般区民と事業参加者との満足度の比較による分析

「区民向け調査」と「事業参加者向け調査」において、それぞれスポーツ、文化芸術、学習活動、観光、国内・国際交流の5分野における分野別目標の満足度を比較しました。

全ての分野における目標について、一般区民と比べて事業参加者の満足度の方が高くなっています。

下図は、「区民向け調査」と「事業参加者向け調査」において、スポーツの分野別目標である「観戦などを通じて、スポーツの楽しさを知る機会を増やすこと」に対して、満足しているかどうかの割合をそれぞれ示しています。



調査概要

1. 調査目的

令和2年度に予定している「文京区アカデミー推進計画」の改定に向けて、同計画が対象とするスポーツ、文化芸術、学習活動、観光、国内・国際交流の5つの分野に関する区民の皆様の意識や活動の実態を把握するため、実態調査を行いました。

なお、5つの分野に関する満足度を多角的に把握するため、一般区民に加えて当該分野の事業参加者にも調査を行いました。

2. 調査方法

(1)区民向け調査

住民基本台帳から無作為に抽出し、郵送配付及び郵送回収（インターネットによる回答可）にて実施しました。

(2)事業参加者向け調査

事業参加者にQRコードを記載したアンケートを配付し、インターネットによる回答にて実施しました。

3. 調査期間

(1)区民向け調査

令和元年9月20日（金）～10月11日（金）

(2)事業参加者向け調査

令和元年11月1日（金）～12月9日（月）

4. 調査対象・回収数

(1)区民向け調査

満20歳以上の区民

配付数	有効回答数	有効回答率
2,000件	750件	37.5%

注）インターネットによる回答件数は750件のうち100件です。

(2)事業参加者向け調査

スポーツ、文化芸術、学習活動、観光、国内・国際交流の5つの分野に関する事業の参加者

有効回答数
150件

注）事業参加者へは不特定多数に配付しているため、有効回答数のみ掲載します。